

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4098400015
法人名	有限会社M&Y
事業所名	グループホーム 銀杏の木
所在地 (電話番号)	福岡県八女郡広川町大字長延630番地2 (電話) 0943 - 32 - 8050

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年11月21日	評価確定日	平成20年1月4日

【情報提供票より】(平成19年11月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	12人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	(光熱水費)1日:300円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	4 名	
年齢	平均 歳	最低 歳	最高 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柳病院
---------	-----

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム銀杏の木」は、大自然に抱かれた広川町で四季の移ろいを感じながら、家庭的な雰囲気の中、ゆっくりのんびり生活していただける施設を目指して1年前に建てられたグループホームである。中庭を挟んで2ユニットあり、開放感がある造りとなっており、明るく清潔感溢れる空間となっている。廊下も広く、共用空間はキッチンと事務コーナーがあり、入居者を見守るスペースを確保している。入居者は日課である散歩を楽しみにしており、機能低下を防ぐ面でも効果を発揮している。開設1年目で、これから地域との連携をはじめ、更にケアの充実を図っていく方向にあり、施設長・管理者・職員の意欲も高く、今後の発展に期待したいグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価に関しては、今回、初めて受けるため、全職員がその意義など理解する段階に至っていない。今後、評価結果をふまえ、職員への理解を高めていきたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、サービス状況を報告し、情報交換を行うなど活発な意見交換の場となっている。今後は、認知症介護の情報発信の場として、地域や家族に更なる認知症の理解を高める場としての活用を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関脇の壁に手作りの黒いミニポストがあり、「いけんぼこ」と書かれている。現在、この利用はないとの事で、家族が気軽に意見や苦情が言える関係づくりが求められる。意見や苦情はサービスの質を高める宝として、家族との関係を高めることが求められる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日課である散歩の際には、地域のゴミや空き缶を拾っている。また、地域の祭りや清掃活動には参加している。グループホームの8月の行事である縁日には、地域の方も招待し交流を高めている。近郊には小学校などもあるので、交流を高めることが期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念が職員全員で作り上げ、「自由・安らぎ・温もり」を柱に「1. その人らしい暮らし方の支援 2. 安心して生活できる環境づくり 3. 職員と入居者の“ありがとう”が言える関係づくり 4. 地域との人達とのふれあいづくり」など、わかりやすい言葉で示されている。地域密着型サービスの役割を示す内容を示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その人らしい暮らしの実現に向けて、理念を玄関の壁に見える位置に掲示するなど、日々のケアの中で意識して取り組む様になっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日課である散歩の際には、地域のゴミや空き缶を拾っている。また、地域の祭りや清掃活動には参加している。グループホームの8月の行事である縁日には、地域の方も招待し交流を高めている。近郊に小学校などもあるので、交流を高めることが期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に関しては、今回、初めて受けるため、全職員が、その意義など理解する段階には至っていない。今後、評価結果をふまえ、職員への理解を高めていきたいと考えている。		外部評価の意義を理解していただくために、自己評価の内容を職員間で協議するなど、日々のケアを振り返る機会としてとらえ、理解を育むことが求められる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、サービスの状況を報告し、情報交換を行うなど活発な意見交換の場となっている。今後は、認知症介護の情報発信の場として、地域や家族に更なる認知症の理解を高める場としての活用を期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	八女地区介護保険事業連絡協議会のグループホーム協議会に加入し、毎月1回定期的に勉強会があり参加している。その際、行政との情報交換なども行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関しての学習や研修などの機会を設けていない。今後、認知症高齢者の暮らし辛さを理解し、認知症高齢者の権利を守ることを学ぶ学習や研修の機会を作ることが必要である。		開設1年の中で、施設長・管理者・職員共に運営やケアの充実に努められ、研修が課題となっている。行政主催の研修など情報収集に努められ、受講できる体制が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話連絡などで、入居者の暮らしぶりや状態などを伝えている。毎月、定期的に利用料の請求を送る際に、写真などを送っている。今後は、日々の過ごし方がわかる便りなど定期的に送りたいと考えている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇の壁に手作りの黒いミニポストがあり、「いけんばこ」と書かれている。現在、この利用はないとの事で、家族が気軽に意見や苦情が言える関係づくりが求められる。意見や苦情はサービスの質を高める宝として、家族との関係を高めることが求められる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットあり、職員はどちらのユニットにも、顔を出し、入居者とのなじみの関係を築くようにケアを行っている。その為、職員の離職などの場合は、入居者のダメージが少ない様に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用にあたっては、資格のあるなしに関わらず、その方の高齢者に対する考え方などを中心に採用しており、年齢や性別を理由に採用対象から排除することはない。職員のスキルアップのための研修は、これから力を入れていく方針である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権教育・啓発活動の取り組みはこれからである。今後、人権教育や啓発活動を含む研修の情報収集を行い、積極的に受講できるようにしたいと考えている。		認知症高齢者の人権をテーマとした研修に積極的に参加することが求められる。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	外部研修については、積極的に参加できるように努めており、職員の能力に応じて研修を受けられるように支援している。伝達講習も実施している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	八女地区介護保険事業連絡協議会のグループホーム協議会に加入し、毎月1回定期的に勉強会があり参加している。同業者間でグループホームの視察や事例検討などを行い、ネットワークづくりを図っている。久留米市内のグループホームとも情報交換を行う予定がある。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	見学時には、少しでもなじんでいただくために、入居者を交えてゆっくりと過ごしていただけるように支援している。また、体験入所の機会を設け、安心して納得して入居できるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者は、職員と共に中庭での野菜づくりや収穫を楽しんだり、調理の下ごしらえや洗濯物たたみ・モップかけなど、暮らしの中でできる範囲で役割を果たしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己選択を尊重した支援を行っているが、更に入居者の思いを掘り下げる取り組みが必要で、入居者の生育歴・生活歴・病歴などを深く掘り下げ、日々の職員の気づきの積み重ねにより、入居者の思いや意向を把握していく取り組みが求められる。		日常の些細なことも聞き取り、日々の気づきを蓄積して、本人の思いや意向を把握することが必要である。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認定審査会の認定書類を市町村担当窓口へ依頼し、医療情報を整えられることが求められる。介護計画が実際の暮らしの支援になるために個別の短期目標を日々意識して取り組めるように、短期目標におけるケア内容の具体化が必要である。また、日々、そのケア内容の実施を確認することが必要である。		入居者の状態把握のために認定審査会の書類を整えられることが求められ、短期目標設定におけるケア内容の具体化が必要である。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月後の見直しや変化が生じた際には、日々のケア内容の評価を行うことが求められ、ケア内容の日々の実施記録が必要である。		介護計画が実際の暮らしの支えになるために、どのような評価がなされて機能しているかが大切である。本人あるいは家族の要望や変化に応じて、現場で実践的な対応ができる介護計画になるよう、臨機応変に見直していくことが求められる。
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者のなじみの場所への外出は支援しており、店・公園・お寺など、できる範囲で入居者の要望や意向を尊重し、入居者に関わる関係性を柔軟に取り持つ支援を行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望に応じて、今までのかかりつけ医と連携を図りながら、週1～2回の受診を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	現在、対象者がいないこともあり、重度化に向けての取り組みはこれからである。入居時より、家族の意見を聞くなど日頃から家族の考え方を確認しておくことも必要で、看取りは日常のケアの延長上にあるものとして捉え、日頃より主治医や職員などと話し合い、看取りの方針など書類整備が求められる。		看取りについて、運営推進会議の場でも意見を聞くなど、日頃から家族や主治医・職員と共に看取りの方針や体制など話し合わせ、具体的にホームとしての対応を検討し、文書化するなどが必要である。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日々のケアの中で、職員は「主役は入居者」を意識した言葉かけを行うように配慮している。また、時には親しみを感じていただけるように方言で話すなど、状況に応じた対応を行っている。入居者の記録類は、事務所で保管・管理を行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	毎日の日常の中で、職員が主導的にならないように心がけ、入居者や入居者同士の会話に寄りそったり、その人らしさが発揮できるように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	職員は入居者に声かけを行い、「料理をつくる・食べる・片づける」場面を一緒に行い、入居者との関係づくりに努めている。また、コスモス見学の際には、外食を楽しんだり、季節に応じてソーメン流しやバーベキューなども楽しむ支援を行っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	毎日、入居者の希望にそって入浴できるように支援しているが、時間帯によっては支援できていない場面がある。		入居者や家族から一人ひとりの習慣や好みを聞いて、相談しながら個別にあった入浴の支援を行うことが求められる。
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
う					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じた行事計画(1月:初詣/10月:コスモス見学・外食/11月:菊花展/12月:餅つき大会・クリスマス会など)があり、入居者が楽しみにしている。また、中庭では野菜を作り、収穫を楽しんでいる。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調によって、散歩やおやつのお買い物は日課となっており、調査の当日も散歩を楽しんでいた。本人の状態により散歩のコースを決め、無理のないように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関にセンサーを設置して安全確認を行っており、玄関脇に事務所があり、入居者の動きが察知できるように配慮している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在、年2回、定期的に防火訓練を行えるように計画しており、12月に地域の方々の協力を得て防火訓練を行えるように計画している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食材業者に委託し、一定の栄養バランス・量が取れる食事が取れるようにしている。水分摂取量も食事ごとの水分やおやつなど、おおよその水分摂取量が確保できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	日中は、ヒ-リングやリラクゼーションに効果が高いBGMを流し、ゆったりと過ごしていただく配慮を行っている。共用空間は日当たりが良く、間接照明もあり、手作りの作品が飾られ、温かい雰囲気づくりに配慮し、ほっとくつろげる空間の工夫がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者一人ひとりの居室に表札があり、テレビが置かれ、プライバシーに配慮した設備がある。各居室は、木のぬくもりを感じる温かい造りとなっており、入居者それぞれになじみの物があり、入居者の個性に応じた居室づくりを支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			